

意外に多い性感染症の咽頭感染。
意外にも“うがい液”で検査できます。

咽頭における淋菌・クラミジア陽性者数



東京女子医科大学 感染症センター 耳鼻咽喉科 全田 敬子先生ご提供

患者さんへの負担が少ない、
“うがい液”での検査が
可能になりました。



1. うがいの仕方

生理食塩水(日昇方など)をコップに15~20mL入れてください。生理食塩水15~20mLを口に含み、顔を上に向けて10~20秒間、勢いよく“ガツガツ”とうがいを行ないます。

注意：口に含んで吐き出した液とうがい用容器に落ちた液を合わせて“うがい液”とします。



2. 検体輸送液への懸濁

“うがい液”全量をうがい用容器に戻取し、スポイトでコバス PCR メディア(尿・うがい用)に必要量添加します。
注意：“うがい液”はコバス PCR メディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。



3. 検体容器の保管

PCR メディアの蓋をしっかりと閉めてください。PCR メディアを5回転倒混和させてください。

“うがい液検体”
の採り方

性感染症は口腔や咽頭にも感染します。 そのため、早期発見と確実な治療が求められています。

監修：東京女子医科大学 東医療センター 耳鼻咽喉科 余田 敬子先生

咽頭だけの感染も少なくないため、 “うがい液”での咽頭検査をお勧めします。

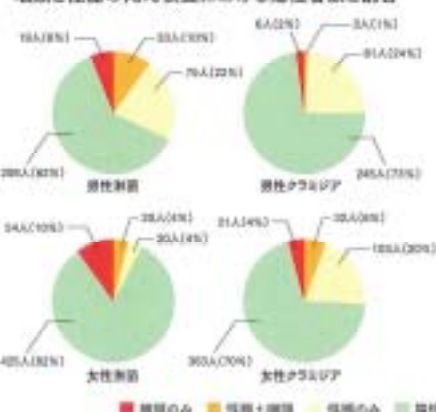
◎産婦人科、泌尿器科に性器感染症の検査を受診した人を対象に、性器と咽頭からクラミジアと淋菌の検査を実施した結果、男女ともに咽頭で約15%が陽性。また、その陽性者のほとんどが症状も所見もない無症状性感染でした。

◎女性における淋菌の陽性率は、咽頭の方が性器よりも高い結果でした。

◎クラミジアの陽性率は、女性では10%、男性では3%の人が咽頭で陽性でした。

(Japan Medicine MONTHLY No.24/2011年12月25日発行)

咽頭と性器の同時検査における陽性者数と割合



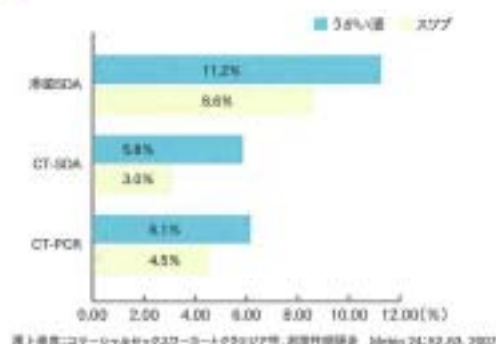
咽頭検査の検体として、“うがい液”の検出率は 従来の咽頭スワブと同等以上です。

◎同じ患者さんから咽頭スワブと“うがい液”を同時に検査した結果、咽頭スワブに比べ、“うがい液”の方が良い検出感度結果が得られました。

◎スワブ陽性者の“うがい液”は、すべて陽性でした。

◎“うがい液”は咽頭全体の粘膜が採取できるため、スワブによる検体採取のように、採取者の技量に左右されることがありません。また、スワブのように感染炎症箇所を擦過しないことから、患者さんへの負担が少なく咽頭検査に有用な採取方法です。

(Japan Medicine MONTHLY No.24/2011年12月25日発行)



SDA法(咽頭スマア)とコバス4800システム CT/NG(咽頭うがい液)の相関は良好です。

◎コバス4800システムCT/NGの
“うがい液検体”は、他法咽頭スワブ
と良好な相関が得られました。

クラミジアトラコマチスDNAの検出

CT DNA (n=445)		SDA法(咽頭スマア)	
		陽性	陰性
本キット (咽頭うがい液)	陽性	23	6
	陰性	2	414
-総数		25 (5.6%)	420 (94.4%)

淋菌DNAの検出

NG DNA (n=445)		SDA法(咽頭スマア)	
		陽性	陰性
本キット (咽頭うがい液)	陽性	41	19
	陰性	12	392
-総数		53 (11.9%)	402 (90.1%)

臨床試験は、医学と薬学J0010/1007-1014, 2011

検査要項

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬 区分番号	保険点数	検体収容名
7704	クラミジア トラコマチス PCR うがい液	うがい液	5mL	QU	2~30℃	2~3	PCR法 (リアルタイムPCR法)	陰性	0023-2	210	クラミジア・トラコマチス 検体検出

※A クラミジア・トラコマチス抗原検出とクラミジア・トラコマチス抗体検出を併用した場合は、生もののみを設定する。

※B クラミジア・トラコマチス抗原検出は、PCR法、LCR法、免疫ハイブリダイゼーション法、ハイブリッドキャプチャー法又はSDA法により、尿試液、生検液又は咽頭からの検体によるものである。

※C 尿試液・生検液又は尿試液は所要日数3~4日となります。

※D うがい液を採取後に冷蔵庫で保存される場合は、2~8℃で検体を保存し、100以内の当該検体容量(QU)に移してください。

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬 区分番号	保険点数	検体収容名
7702	淋菌 PCR うがい液	うがい液	5mL	QU	2~30℃	2~3	PCR法 (リアルタイムPCR法)	陰性	0023-2	210	淋菌検体検出

※A 淋菌抗原検出、淋菌抗体検出又は淋菌核酸増幅検査を併用した場合は、生もののみを設定する。

※B 淋菌抗原検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅SDA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はSDA法による、淋菌抗原検出は、尿試液、生検液又は咽頭からの検体によるものである。ただし、尿試液を含む、女子尿を含むは、なし。SDA法又はPCR法による増幅核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法においては咽頭からの検体も算定できる。

※C 尿試液・生検液は所要日数3~4日となります。

※D うがい液を採取後に冷蔵庫で保存される場合は、2~8℃で検体を保存し、100以内の当該検体容量(QU)に移してください。